

社説

庄内町清川出身の幕末の志士、清河八郎の没後150年を記念し、その妻お蓮(れん)の生涯を描く演劇「お蓮」が3月10、11の両日、同町の響ホールで上演される。清川出身でシナリオライター講師の柘植徳井さん(千葉市)が脚本を執筆。地元の劇団響のメンバーら出演者は本番に向け稽古に励んでいる。

清河八郎は1855(安政2)年、湯田川温泉(鶴岡市)の旅館での宴席で遊女だったお蓮と知り合った。親の反対を押し切って結婚した八郎だが、61(文久元)年、江戸で町人風の男を斬って幕府に追われる身となり、同志とともに捕らえられたお蓮は翌年亡くなった。お蓮は拷問に遭っても八郎をかばったという。発端となった「町人斬り」は、八郎が酒を飲んだ帰りに日本橋で男に絡まれ無礼討ちにした事件。さまざまな見方があるが、八郎を追って鶴岡、新潟方面に出張した北町奉行所同心の手帳が東京でおとし発見され、幕府が仕掛けたわなだった可能性が高まった。この前年、八郎は尊王攘夷(じょうい)の同志と「虎尾の会」を結成しており、手帳には事件の前日、八郎をはじめ尊攘派の一斉逮捕の命令が出ていたと記されている。

清河八郎の妻お蓮描く演劇

が、八郎を追って鶴岡、新潟方面に出張した北町奉行所同心の手帳が東京でおとし発見され、幕府が仕掛けたわなだった可能性が高まった。この前年、八郎は尊王攘夷(じょうい)の同志と「虎尾の会」を結成しており、手帳には事件の前日、八郎をはじめ尊攘派の一斉逮捕の命令が出ていたと記されている。

本県から「幕末」を発信

清川の歓喜寺と東京の伝通院に八郎とお蓮の墓がある。東京のNPO法人「元氣・まちネット」は清河八郎が学者になるつと家出して江戸に向かったルートを2009〜10年に踏査したが、その過程で出身地の熊出(鶴岡市)にもお蓮の墓があるのを確認した。清河八郎とお蓮が出会った湯田川温泉

は、戊辰戦争が始まった1868(慶応4)年から約2年間、新徴組が居住した地でもある。新徴組は八郎が率いた浪士組がルーツ。八郎は逃亡中、盟友で幕臣の山岡鉄舟らを通じて幕府に「急務三策」を建白した。政治犯の大赦を願い出たもので、これによって罪を許されることもに、上洛(じょうらく)する將軍を警護

するため浪士組が結成された。63(文久3)年、浪士組が京都に入る。八郎は一転して尊王攘夷の党として隊員らを掌握。攘夷決行を企てた八郎は同年、江戸で暗殺され、浪士組は新徴組、新選組となって明治維新を迎える。新徴組は江戸の警備を受け持つ庄内藩に預けられたが、大政奉還後は同藩とともに庄